

社会人のための情報システム誌
— 経営近代化のシステム研究 —

Computer Report 11

2013 No.710

3 はじめの言葉

4 ビッグデータ活用のススメと

その影に潜むものの正体

田原文夫

ビッグデータ分析が昨今の業界ブームである。日本の業界業者による最近の発表ネタとしても「ビッグデータ関連もの」が多い。インターネット上に存在するデータすなわちビッグデータ分析の実践を、業界業者が一丸となって企業等ユーザー組織に幅広く訴えてきている。大規模データベースのことを「ラージデータベース」と表現されていた時代があった。言語遊びをするつもりはないが、ビッグよりもラージのほうが「よりスケールが大きい」ものをイメージするのが一般論のように思える。それをあえて、この業界では、「ラージからビッグ」の世界へと誘うがごとき動きを見せている。データウェアハウス論が囃し立てられた時、「生データ論」というのが登場した。「大福帳データ」などとも言われた。生データ論では、すべての「原始データすなわち生データ」を集めておけば、「必要な加工データは何でも抽出できる」が売り文句で、メインのキャッチコピーとなっていた。その生データと連動するアプリケーションプログラムとして ERP パッケージなるものの活用が喧伝された。長年、アプリケーション開発とデータベース/データウェアハウス構築に取り組んできたシステムエンジニアには、かなりの違和感のある喧伝であった。また、実際、否定的な意見も多かった。だが経営トップにはこういう説明が効果的で、何でもかんでもが集積された生データベースと ERP パッケージとのセット導入は、市場でかなり進展した。今度のビッグデータ論は、データ/情報の高度化利用あるいは情報系システム展開の高度化というのだろうか、蓄積されたデータを分析加工すること以上に、インターネット上の無作為のデータ/情報を分析することをすすめているようだ。しかし本欄で何度も指摘してきたことだが、最終的な情報処理は人間がするものである。コンピュータによるビッグデータ分析行為そのものよりも、関わる人間の情報処理能力が成果を導き出すビッグなカギとなる。その一方には、インターネット上のデータ活用自体が危ないという声も聞こえている。

11 情報社会を考える その38

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか
情報社会時代の情報システム部門

編集部

某ソフトウェアベンダー主催によるユーザー企業団体の研究会テーマに「情報システム部門のミッションについて考える」というのがあるのを目にした。非常に懐かしくもあり、いまだにこうしたテーマを追求している勢力が存在することに一種の感動をすら覚えた。

その昔（といったら語弊があるかもしれないが）、「情報システム部門は果たしてスタッフ部門か、ライン部門か」というテーマが、多くの企業等コンピュータユーザー組織で論じられていた。組織全体で情報システムの展開／運用／運営を考えていくべきだという発想があったからだ。

情報システムリソースが、メインフレームコンピュータという限りなく大規模化が進展するプロセスにあったというのも、その背景にあった。もちろん、大規模化と言っても、今の常識でいうところの CPU 能力というよりも、その導入コストが大規模（高額）であったがゆえである。

近年でも、都市銀行（メガバンク）の基幹情報システムは、文字通り「装置産業としての金融機関の中核」として展開されており、その開発構築そして運用運営は、情報システム部門の代表的ミッションとされている。

この金融情報システムが、金融業を成立させるのに必要不可欠だとしたら、それに携わる情報システム部門の位置付けは、ただ単に、事務処理部門、事務合理化担当部門だとは考えにくい。情報システム部門は、スタッフとして位置付けるか、ライン業務担当者として位置付けるかの議論も、ここにある。

1 4 日本再生／世界競争力回復のカギ

何故 M-BIM 構築が必要か その 33

水田 浩

G(Green)－BIM

1) コンパクトシティ

復興が急がれる 2011 年（平成 23 年）3 月 11 日の東日本大震災、40 年の寿命が過ぎた公共施設、2050 年には 60%に縮小するコミュニティ、さらに 2020 年に開催される東京オリンピックと土木・建築事業は膨大になり、人手が足りなくて、入札が成立しないことが頻発している。

会計検査院は 9 月 29 日、東日本大震災の被災地、岩手、宮城、福島 の 3 県で行われる予定の復旧・復興工事のうち、昨年 9 月までの 1 年間で 21.1%が入札者不足で不成立になる「入札不良」だったことを明らかにした。

会計検査院は建築資材や人材の不足を主な原因に挙げている。これらの地域は高齢化が進んでおり、地域の復興はコンパクトシティでなければならない状況になっている。

2 1 連載 アーキテクチャ論 (31)

ArchiMate2.0

山本修一郎

今回は、オーブングループのアーキテクチャ記述言語である ArchiMate[1]（アーキメイト）を紹介する。

■ArchiMate の経緯

2 8 震撼する恐怖

人材不足によるセキュリティリスク

aism

着々と本格的な国家レベルでのセキュリティ対応策が進められてきている。「日本版 NSC (国家安全保障会議)」設置の動きと並行して、特定秘密保護法が今国会に提出されようとしている。様々な環境変化を想定し、呼応したセキュリティ対策を考えなくてはならない。aism では、様々な角度から企業組織レベルに置いたセキュリティ論および対策を考えてきたが、ここでまた浮上し、痛感されるのが、セキュリティ対策を担う人材の存在についてである。日本版 NSC 論が出てきた背景も含めて、最新の情報システムネットワーク環境を熟知、精通した人材をどう確保して臨むことができるか。今後のセキュリティ対策の大きなポイントである。

3 1 IT 新時代とパラダイム・シフト

第 4 9 回 「世界最先端 IT 国家創造」宣言は誰のもの

根本忠明

今年 6 月に、安倍首相は「世界最先端 IT 国家創造」宣言を行い、2020 年までに IT 先進国を実現するとしている。しかし、世間・マスコミはこれを信用していない。2000 年の森首相の宣言に始まるこれまでの IT 戦略は不毛に終わり、日本は IT 後進国に成り下がってしまっている。安部首相に求められているのは、口約束ではなく規制緩和・規制撤廃の早期実施であり、アベノミクスを成功させる鍵でもある。

3 4 続インテリジェンスへのいざない 46

国民への情報開示か 秘密漏えい防止法に基づく漏えい防止か

今井 武

周辺隣国の動勢が、様々な機密情報を保有しなくてはならない状況を創り出している。その機密情報の漏えいを断固阻止しなくてはならないという政治判断が、特定秘密保護法の成立を急がせている。新法の成立を積極的に進める派と、慎重論を唱える派とが、それぞれの立場から賛否両論を戦わせている。有識者も賛否両論あいなかばで、国民の知る権利どう守るか、国家の安全をどう確保していくかの判断で日本が揺れている。

3 7 連載 四字熟語カトレーニング

すぎやまちヒロ

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版
データ・ウェアハウス

定価 本体 2,816円＋税 送料(〒300)
A5版 289頁

石井 義興 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの構造と	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネステッド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス
OLAP

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)
A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構造
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)
A4版 181頁

田原文夫 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの
落とし穴

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)
A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修
aism情報セキュリティ・マシントリプル研究会 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除
第二章 aism情報セキュリティマシントリプル研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 匿名化された電子署名方式の基本原則	第十三章 生体認証のための
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最新のインターネット防衛セキュリティ
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2012年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたっての
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	インターネット関連の苦情と不正アクセス
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！
トップ主導の
情報システム革新

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)
A4版 271頁

高田 顯重 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)
A4版 213頁

安田 聖 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分解方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ！というときの(得)広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円＋税 送料(〒300)
A5版 228頁

加藤 洋一 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売れない企業体質
■ ニュースリリースは東方向選	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれ、国際グローバルサーバー—
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円＋税 送料(〒300)
A5版 268頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 発端	第十一章 日本開拓手法の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米商チーム崩壊の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たな仲間
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米商事務所移転と新たな組み
第五章 FJO、IBM競争	第十五章 開拓フル稼働とバリエーション
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番稼働日
第八章 米商チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働時の一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米商チーム、異なる三人組	第二十章 稼働時の二 安眠薬と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp